

平成29年8月21日（月）  
にぎたつ会館

第56回四国工業教育研究協議大会の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

本日は、全国工業高等学校長協会の後藤 博史理事長様をはじめ、工業教育に携わっておられる多数の皆様の御出席を得て、本大会がこのように盛大に開催されますことを、大変喜ばしく存じますとともに、開催県としまして、皆様の御来県を、心から歓迎申し上げます。

また、四国工業教育研究会が、長年にわたり、工業教育の充実、発展を通じて、有為な人材の育成に努めておられますことに、心から敬意を表する次第です。

さて、地方創生が叫ばれる中、本日、御参加いただいている各学校においては、地域産業界との連携を一層深め、地元企業に伝わる技術力を引き継ぐことのできる人材の育成に努めておられることと思います。本県では、昨年度、今治工業高校に地元の基幹産業である造船業の後継者育成を目指し、機械造船科を設置いたしました。同校は、文部科学省の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の指定を受け、地元で学び、地元就職する、いわゆる地学地就に取り組んでいるところでございます。

また、県内の優れた技術力を持つ、ものづくり企業175社を、スゴ技企業としてデータベース化し、そこから20社を抜粋して「未来がキラリ☆スゴ技BOOK」という冊子にまとめ、県内全ての中学・高校に配布し、キャリア教育に活用しております。本冊子は、皆様にお配りしておりますので、参考にいただければ幸いです。

さらに、離職率の低減や県内就職率の向上を目指して、高校を卒業して就職した生徒へのフォローを行う「高校卒業者職場定着促進事業」や、中等教育学校前期課程の生徒が、スゴ技企業を含む210の事業所等の協力のもと、5日間のインターンシップに取り組む「えひめジョブチャレンジU-15事業」に取り組んでおります。

工業高校には、その教育活動に大きな成果を上げていただいております。昨年度は、本県の工業高校の生徒が、高校生ものづくりコンテスト全国大会やWRO国際大会等で優勝するなど、専門的な技術や技能をしっかりと身に付け、世界有数の高い技術力を持つ日本のものづくり産業を担うことのできるスペシャリストとして成長していることを、大変心強く感じているところであります。

これからの、変化の激しい時代の中で、我が国が技術立国として発展していくためには、引き続き、広い視野と優れた先見性を持って、工業教育を力強く推進していくことが重要であります。皆様方には、本日からの二日間、工業教育の更なる発展に向けて協議研究を深めていただきますことを、心から期待いたしております。

終わりにになりましたが、四国工業教育研究会のますますの御発展と、御参会の皆様方の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。